

ほなみ通信

第81号

2018年2月28日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

新年会



道場山穂波の里

職員2年目研修

坂井輪会では2年目法人研修において「施設が地域から期待されている役割を理解する」を目標に掲げており、今年度は14名の職員が参加し2名の入居者、ご家族より貴重なお話を聞かせていただきました。

W様

父は施設入所に強く反対しましたが、この先を考え安心して任せられる施設を探し、父を裏切つて申し込みました。入所が決まった時も「なんで俺をこんな所に入れるんだ。親不孝者」と言われ、今でもいろいろ言われます。しかし、私は気候に応じた室温で暮らし、温かい食事を出してもらい、食べられる幸せ…。私はこれ以上の親孝行は他にないと思っています。父が健康で長生きできるのは皆さんのおかげ、穂波の里で介護をしてもらえるおかげで、父だけなく何よりも私も幸せでありがたいと思っています。

H様

様々な施設が多くなり良さも悪さもあります。面会する時に扉やエレベーターに鍵がかかっている自由に入りにくい施設もありました。穂波の里は家族も自由に

お世話になりました

たんぽぽ広場坂井東

法人事務局長 井上 悦子

「たんぽぽ広場坂井東」は今年度(30年3月27日)で閉鎖いたします。

「たんぽぽ広場」は高齢者の身近な居場所として平成19年5月寺尾上、同年9月坂井東に坂井輪会が空き家を借り受け開設しました。穂波の会、坂井健康友の会をはじめ地域のボランティアの皆さんの協力を得ながら10年間運営してきました。その間、身近な相談場所として介護相談や介護の学習、介護保険申請援助等、専門職が関わり、昼食を伴う居場所として地域に貢献してきました。

このたび、「たんぽぽ広場坂井東」大家さんから建物の老朽化が激しく取り壊したいという申し出があり、地域の居場所としての役割を閉めることとなりました。

10年が経ち、国も「地域包括ケア」体制づくりの一環として地域の居場所、茶の間づくりを制度的な施策と位置付けるようになりました。各地で居場所が開設されたことで先駆的な役割を終了することとなりました。

出入りできていい。母と四六時中いた時はギリギリしてお互いの関係性も悪くなっていました。入所後は全ての行事に私も参加しようとして決めています。職員の皆さん。若くても介護職のプロとして自信を持って働いてください。家族と職員が助け合う事でお互いが幸せになれると思います。

職員感想(抜粋)

○特養介護

*愛情の強さ家族の絆を感じた。入居時からの出会いになるのでお聞きしたことを参考に日々の対話に努め、自己の人間性も高めていきたい。

*涙を流されながら話して下さり在宅介護の大変さを感じた。大事に思っておられるその気持ちに添えていけるような援助をしていきたい。

○特養看護

*在宅介護の負担ははかり知れない。入居者、ご家族も安心して過ごして頂けるよう生活背景を考えながら支援したい。

○デイ介護

*ご家族から直接お聞きすることでイメージを膨らませて感じることで、その方の人生に関わる仕事にやりがいを感じました。

○グループホーム介護

*自分自身も親のこれからを考えさせられる機会になった。入居後

は安心して暮らすだけでなく、主体的に生活して頂けるような支援につなげていきたい。

○ショートステイ介護

*子育てをしながら仕事をやり介護も…。色々な苦悩や葛藤があり施設入所を判断されたのだと思つた。信頼関係を築きながら安心して過ごして頂きたい。

○包括

*生活歴や価値観から何を大切にされてきたかを知り、思いを汲んだ良好な関係を築き、介護者が一人で背負いこまなくていいよう気持ちを理解して力になりたい。

○居宅ケアマネジャー

*利用者やご家族の全てを理解する事は出来ないが、背景や思いを知ることで、これからの意向や気持ちに寄り添ったお手伝いをしていきたいと強く思った。

ご家族より職員への感謝とねぎらい、そして励ましの言葉を頂きました。このような研修は珍しく「モチベーションが高まった」との職員感想もあり、今後もご家族の皆様よりご協力いただきながら実りある研修をすすめていきたいと思ひます。

法人研修委員長 古藤 悦子

引越しました

運動サークル笑

サービス付き高齢者向け住宅

笑日和坂井 管理者 星野 文平

この度坂井輪会様より介護予防体操の移転先のお話をいただき、当住宅としてはとても喜んでおります。当住宅は平成27年10月1日に開設し、入居者様も増えてきた為、今後は地域の方々との関わりを強化したいと考えておりました。入居者様と地域の方が交流すること、入居者様にとってより住みやすい住宅となること、また

尚、平成27年から実施している介護予防太極拳ゆつたり体操の「運動サークル」については、健康友の会坂井東支部の皆さんの協力で、近くの「サービス付き高齢者向け住宅笑日和坂井」様ホールをお借りし毎週金曜日継続することができるとなりました。すでに12月1日より実施しています。長い間、「たんぽぽ広場坂井東」にご協力をいただいた皆様にお礼申し上げます。



(右) 外観(笑日和坂井様パンフレットより引用)です
(左) 反対側からも出入り可能です 場所は坂井東4丁目6番14号

地域の方が入りやすく、介護に直面した時に気軽に相談できる場所となること、それが笑日和坂井の大きな目標であります。

そんな中でちょうどこのようなお話があり、二つ返事で承諾させていただきました。担当される方々もとても一生懸命で、開催前にも数回打合せやデモンストレーションに来ていただき、情熱を感じました。

平成29年12月1日より介護予防体操がスタートし、早1ヶ月半が

そば打ち体験

多世代交流 in たんぽぽ広場寺尾上



忘年会 ケアハウス穂波の里

カワイイ!!

メガネの奥の瞳、実はニセモノです



経ちますが、良かった点が多々あります。まずは地域の方々に出入りしていただいたことで、笑日和坂井の風通しがとても良くなったことです。当住宅で開催されている地域の方々にも大勢お越しいただき、大盛況となりました。そしてまだ少数ではありますが、入居者様も参加され、参加された入居者様はとても喜んでおられること、そしてADLの維持にもつながることはとても喜ばしい点であります。

入居者様にとって、参加される地域の方にとっても良い関係性を築いていければと願っております。

居場所づくりを通して
たんぼ広場の10年

社会福祉法人坂井輪会
理事長 上杉 あさ子

寺尾上では参加人数が20名前後とずっと変わりなく続いています。人が入れ替わっても参加人数が変わりなく続いている、このことはなぜかということ、一つはこういう方が新しく参加して来られているのか、自治会の皆さんからご紹介があるとか、民生委員さんご紹介くださるとか、それから区の元氣塾に参加されている中からの紹介があるとか道場山で行われています介護予防の体操等の取り組みの中から、またあるいはボランティアさん自身がお誘いくださる、そういう中で地域の皆さんに支えられてこの10年の寺尾上の広場の継続があるというふうに思っています。二つ目が広場を通してこの地域でどのような変化が生まれてきているんだろうかと



なということ、問題提起にさせていたきたいと思っています。

たんぼ広場を活用しての取組み

寺尾南新町自治会
元自治会長 高野 健三

たんぼ広場はいくつかの問題点を含みながら私的にはまあ上手くいっているんじゃないかと考えております。その原因一つ目はすでにあつたたんぼ広場の影響です。そのポイントをと三つ挙げてみますとまず一つ目たんぼ広場の会場はたんぼ広場の会場をそのまま使わせていたということ、何か行事がありますと場所探して大変なんですけどもね、その心配がいらないかたということは大変大きなメリットだったというふうに思います。ポイントの二つ目。10年間にあつたたんぼ広場の活動が下地としてあつたこと。そのノウハウをそっくり参考にいたただけたということ。ポイントの三つ目。木曜日のたんぼ広場の参加者の中から多数の人がたんぼ広場へ横滑りに参加してくれたということ。大きな原因の二つ目は運営スタッフの動きです。その一つ目は何とんでも地域包括支援センター坂井輪の存在です。二

いうことですけれども、一つは地域の身近な相談場所ということとで機能しているということ、それから居場所です。それから人たちが居場所です。ただでなく、地域の生活の中でもつながってくださっている。顔は分かっている名前も分かる。ただでなく、あいさつ程度で済ましている皆さんがたんぼ広場に来られることによってお互いの心が分かったりというふうなことで、気にかける関係ということに発展をして、来られない方がいらつしやると「あの人はどうされたんだろうか」と参加者の方が自発的にその方々を訪ねてくださったりということが生まれ、地域づくりにとつてたんぼ広場の意味ということを考えてみますと、住民自身がつながりをつくって住み続けられる地域をその地域に住む主人公として主体的に作り上げていく、いわば民主主義に貫かれた自治としての地域づくりということにあるんじゃないかというふうに思っています。居場所を地域の皆さんと一緒に発展させていくということが大変大事じゃないか



シンポジウム H29.12.2 17年目 安心して住み続けられるまちづくり

ています。そして立ち上げから今まで大きな問題もなく回を重ねてこれたのも運営メンバーを担ってくださっている方々の力が大きいんだと思います。体操の合間の10分程度の休憩時間は楽しいおしゃべりタイムです。このサークルで知り合いになつてお話をしている方もいるように横のつながりも広がっているように感じています。参加者からの意見で初めて会う方でも名前が分かるようにということ、名札をつけるようになったことも良かったのではないかなというふうに思っています。参加されている方々の笑顔や笑い声を聞くと、一週間の一時間ではあるものの、地域にこういった場所の必要性を強く感じます。何かのつながりの力が形になつて行きたい人が気軽に足を運べる場所がもっと地域の中に増えたらいいなと思います。自分たちではどうしたらいいのかわからない人たちにやはり協力してくださる人や団体があつてこそ実現できるんじゃないかと思っています。安心して住み続けられるまちづくりは住んでいる人一人一人が作っていくものだと思ひますので、他人ごとではなく自分のこととして取り組んで

～つながりを力に～

のような状況の中で高齢者が安心して取り組める体操というのが大変重要なものだということに言えるのではないのでしょうか。たんぼ広場の存在とその発展の必要性を再認識したところでございます。

※たんぼ広場 介護予防体操の集まり

てらお運動サークルを通して

総務課長

野崎 美恵子

てらお運動サークルの立ち上げのきっかけなんです、ショートステイの空いてるお部屋がありまして内部の職員の中から施設で空いてる部屋の有効活用ができないのかなあ、どうせだったら地域の皆さんから有効に使っていただきたいよねという意見が最初でした。かと言って具体的にどうしたらいいのかわからないまま時間だけが過ぎていったわけですが、そのようなぼんやりとした内部の声がしばらくしてから、地域包括支援センターの方に相談に行ったところから形になったわけです。8月に立ち上げの話し合いを行つてから、翌月9月21日に第一回目を迎え、この前の水曜日で56回目を迎えることができました。最近では20名前後の方が参加され

いけば、小さな力も大きなものになるのではないのでしょうか。

介護者の繋がりから

在宅介護者えがの会

役員 南雲 辰一

発足はですね今から7年前です。2010年の10月にここ穂波の里の主催のですね介護者教室の懇談会で紙おむつの支給が減らされるというようなことが話題になりました。署名運動をしようやということがきっかけに、一か月後の11月に一か月足らずの準備期間で13人の参加で発足しました。会員数は現在今のところ25人です。役員は会長を含めて8人です。8人のうち7人がもう介護を終わっているんです。一人の方だけが家で介護なさっています。皆さんですね過去の介護で大変だったというようなことをまあ私お聞きしております。体験交流会は年に4・5回くらいやっています。出席困難な人は送迎もしています。参加者皆さんは介護で大変な苦労をお互いに理解しあつてきているようにですね。

健康チェックを通して居場所の役割

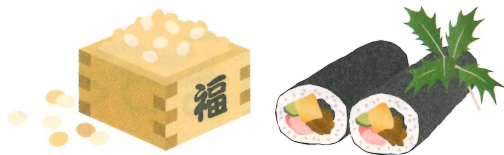
坂井輪診療所

師長 木村 光子

坂井輪診療所では健康友の会という組織があります。その会員さんが計画して地域の自治会や集会所、スーパーの店頭などで健康チェックと称して血圧や体脂肪、筋肉量をはかったり骨密度を測ったりということ、器械をもつて測定の測定しています。そこへ私も診療所の保健師や看護師が邪魔をして簡単に結果を説明して、簡単な体操なども提案しています。今までいろんな場所で行ってきた健康チェックを行ってきました。ここに来る人とか元気な人が多いです。であちこちで笑い声が聞こえてきます。ほぼ毎日笑う人とほとんど笑わない人では笑う人の方が元気だよ。町内会やボランティア団体など何らかの役割を担って社会参加している男性はうちの発症率が低いなどと調査結果も報告されています。一人でいるよりも集団でいる方が良いと。人とのつながりが非常に大きいということを指摘しています。元気な人にはぜひスタッフとしてかわつていただきたいと思います。それがあなた自身の健康寿命の延伸にいい影響をもたらすかもしれません。一部抜粋してご紹介しました

グループホーム穂波の里

今年は鬼を手作りしました



デイサービスセンター穂波の里

私たちの目指す 通所型基準緩和サービス

デイサービスセンター穂波の里では、今年度より通所型基準緩和サービスも実施しております。このサービスは利用される方が、可能な限りその居宅において、自立した生活を営むことができるよう、利用される方のご希望や状態をふまえながら、生活機能の維持・向上を目指すことを目的とし、少しでも豊かな生活が送れるよう支援します。

運動や作業、送迎等を基本にご希望（入浴、昼食等）で週1回〜2回ご利用いただけます。介護

予防運動指導員をはじめ、介護福祉士、看護師を配置し、多様なサービスを提供いたします。転倒予防やご自身の健康維持のため、一人では継続できないけれども仲間と一緒にあれば継続できる等々。

随時見学・体験利用を実施しております。ご希望や詳細につきましては左記のお問い合わせ先までご連絡下さい。

お問い合わせ先

デイサービスセンター穂波の里

電話 (025) 269-1622

担当 内田・樋口

特別養護老人ホーム穂波の里

今年も元気に楽しく過ごしましょう

